

法蔵 270号 夏です号

・ 6月13日・14日と永代経法要が勤められました。多くの方のお参りを頂き、おにぎり、ぶた汁、歌登の山菜のおときを頂きました。布教使さんのお話しは、いかがでしたか？声が聞き取り難いということがあって申し訳けなかったのですが、お話しのご感想をお聞かせいただければ、大変有り難いです。よろしくお願い致します。

永代経に関してのことは、どのようなことでもお気軽にお聞きください。

7月12日は、お盆前の最後の定例法話会です。20人をめざしております。どうぞ、お参りください。

「月に一度2時間、仏さまのお話しに耳を傾けてみませんか！」

・ 7月12日 午後0時より 「定例法話会」 布教使さんは、佐々木強師（札幌市 栄光寺）です。お参りをして、カレーライスを食べ、お話しを聞きましょう。お待ち致しております。 (6月21日記)

・ 八月はお盆のお参りに歩くために、月参りを休ませて頂いております。何かご要望がございましたら御連絡ください。よろしくお願い致します。

「すくわれる とは

自分の心の執着から 解放されること」(「清風」より)

・ 聞法するというのは、段々賢くなっていったり、色んなことがわかるようになって、ということではなくて、逆なのです。軽くなっていくのです。背負わなくてもいい荷物を勝手に背負っていたなあ気づいて、荷物を降ろしていく。或いは「他人というのは信頼して良かったんだ」と気づいて、身に着けなくても良かった鎧兜を脱いで帰る。ずっと我々は、他人というのは、自分を責める眼で見ているに違いないというように、先回りして思うわけです。そうすると弱みを見せないように、突っ込まれないように、というようなことになると、非常にぎこちなくなったり、或いは攻撃的になった

り、防衛的になったりということで、いずれにしてもありのままの私が安心して、ということから遠ざかっていくのです。ですから、むしろ座談会で思いを吐き出して軽くなって帰られるといいのです。そもそもお寺に行って、何か持って帰ろうというのは大体逆なのです。お寺というのは置いていく所なのです。とにかく軽くなることです。軽くなるというのも、やっぱり悩まなくてもいいことを先回りして悩んでいることが我々はものすごく多いのです。飼っている犬や猫が自分は歳を取ったらどうなるのだろうって、ノイローゼになったりはしないわけなのです。人間だけが、まだどうなるのかわからないことをいっぱい心配したり、先回りして歳を取ったらどうなるのだろうって悩んで悩んで、だけど歳を取る前に死んじゃった、みたいなことになってくるのではないかとそのようなこともありますね。・・・・・・・・（真城義麿 師 講義録より）

- ・はや今年も、半年が過ぎました。本当に早いですね。仏教は「順境におごらず、逆境にひがまず」であると聞きましたが、思えば過去にあった、絶望的なことであっても、結果的に何とかなってきたということだと思います。また、思い通りになっても変わっていくということであると思います。ですから、どんなに困ったことであっても、投げ出さず、一日一日過ごしていきたいものです。

「だからこそ

みな 励まし合って生きていこう

みな 助け合って生きていこう」

- ・ 忠峰コーナー

「タンポポのはえて黄色き 草地かな」

「夏空や ナムアミダブツの 今朝の経」 (6月30日記)

- ・ 8月5日(金) 午後1時より 「おみがきもの」 お寺の仏具みがきを行います。御協力
よろしく願い致します。 (7月5日記)